

病は知から

胃・十二指腸潰瘍

かしよう

死に至る恐ろしい病として、古くから日本人を悩ませてきた病気の一つである「胃・十二指腸潰瘍(かしよう)」。しかし近年、医療の進歩により、そのイメージは大きく変わってきています。

「胃・十二指腸潰瘍」って、どんな病気？

季節の変わり目に多い



潰瘍になる人は、季節の変わり目が増えます。ピロリ菌がいる場合、気候の変化によるストレスも原因の一つとなるのです。

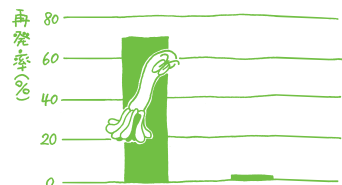
ひどくなると穴が開きます

イタタ!



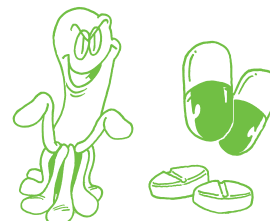
胃や十二指腸の粘膜が深く欠損した状態が潰瘍で、穴が開いてしまうことも。痛みに限らず、さまざまな症状が出ます。

再発率、昔は高かったが今は低い



以前は、何度も繰り返す「やっかいな病気」でしたが、ピロリ菌を除菌することで、再発率はとても低くなりました。

主な原因は「ピロリ菌」と「薬」



ピロリ菌がいなければ、ストレスがかかっても潰瘍はできません。また、消炎鎮痛薬等の薬が原因の潰瘍が増加しています。

夏目漱石も胃潰瘍で亡くなりました



かつては、吐血や下血を伴って命を落としてしまう方も多い病気でした。今は、薬だけで治療可能です。

「まだ若いから」と思わないで



ピロリ菌がいることが分かったら、すぐに除菌しましょう。菌がいる期間が長いほど、リスクが高まるといわれています。

驚くほど変化した

「胃・十二指腸潰瘍」の治療

原因がはっきりしたこと、ここ20年近くの間大きく変わったという胃・十二指腸潰瘍の治療法。先生にお聞きしました。



治療では、ピロリ菌の除菌が大切です。

消炎鎮痛薬などが原因の潰瘍は、胃酸を抑える薬で予防できます。

消化管内科 三輪 洋人 主任教授

ピロリ菌の除菌で再発も激減

約30年前にピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)が発見され、胃・十二指腸潰瘍の最大の原因がピロリ菌であることが分かったことで、治療法は劇的に変わりました。除菌治療により、再発率も本当に低くなったのです。

胃・十二指腸潰瘍は、現在では薬だけで治療が可能です。重要なのは、胃酸の分泌をコントロールすること。最近では胃酸の分泌を完全に抑えられる薬も出てきており、治療はもちろん、ピロリ菌の除菌成績も向上しています。胃・十二指腸潰瘍が胃がんになることはありませんが、胃がんの主な原因もピロリ菌です。胃がんの原因で胃潰瘍になった人は、やはり胃がんになりやすいといえます。除菌をしても、それまでピロリ菌がいた期間が長ければ、注意が必要。年に一度、胃カメラで検診することをお

薬を原因とする潰瘍は増加



すすめします。若いうちにピロリ菌が見つかったのであれば、ぜひ早いうちに除菌をしてください。除菌は、薬を1週間服用して行います。

ピロリ菌を原因とする胃・十二指腸潰瘍が減っている一方で、消炎鎮痛薬として広く用いられている「非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)」や、抗血小板療法に用いられる「低用量アスピリン(LDA)」による潰瘍が増えています。ただし、胃酸を抑える薬と一緒に服用すれば、胃・十二指腸潰瘍は十分予防することができるといえます。薬を処方する医師等に、胃・十二指腸潰瘍の予防に関する知識を広めていくことも私たちの使命だと考えています。